

# 委員会諸君！



## 上のアイテムを使用して、効果的に暑さを避ける対策を行ってください

【効果的に暑さを避ける対策に必要な条件】

- ① 日陰
- ② 風通し
- ③ 飲み水確保

ヒント！ [ここをクリック](#)

【特に注意すべき点】

- ① 台風や豪雨に耐えられること
- ② 土日、祝日や夏休みのこと
- ③ 動物の習性を考えること

みんなの がっこうの どうぶつ  
資料特集号(暑熱対策編) 2015年7月下旬  
資料特集号

発行:公益社団法人 栃木県獣医師会 学校飼育動物委員会

3回読希望

この号の内容

- 1 夏の暑熱対策を特集しました
- 2 状態の観察と飲み水の確保
- 3 具体的な対策

1. 夏の暑熱対策を特集しました  
温暖化、エルニーニョ・ラニーニャ現象などの気候変動やヒートアイランド現象などにより、近年では記録的な暑さを体験するようになりました。自然に近い環境で生活している動物たちにとっては、生命に関わる様な過酷な環境に変化してきました。

本来、暑さに弱い動物たちの暑熱対策を特集しました。

2. 状態の観察と飲み水の確保



## 根拠に基づく動物飼育

### 動物飼育の始め方：飼育舎の床の工夫2（排水）

前号の要約：飼育舎の床は、動物の習性を考えると土間床が好ましいです。しかしながら、飼育舎を清潔に保つためやウサギの穴掘り等のことを考えると、コンクリート床を選択することが合理的です。それでも、動物の習性を考慮して、飼育舎の一角に砂場を設置するとよいでしょう。

今号では、コンクリート床を水洗いする際に問題となる、排水に関してお話しします。

飼育舎の床は、床を洗った水が流れるように、床面積に応じて、5～10 cm程傾斜させると良いでしょう。右上図のように、片流れでも構いません。飼育舎は、南側を正面にするとよいので、南側に向けて傾斜させると良いでしょう。南側が正面でない場合は、正面に向けて傾斜させてください。

高度な技術が必要ですが、排水溝に向けて傾斜させるともっとよいでしょう。

（右下図）この場合、飼育舎内に設けた砂場からは、出来るだけ離れた場所に排水口を設置してください。この後記述しますが、排水口の詰まりを出来るだけ避ける工夫です。

一番コストがかからないのは、右図のようにコンクリートの立ち上がり部分に穴を開けて排水口にする場合です。この排水口は、2～3ヶ所設置してください。

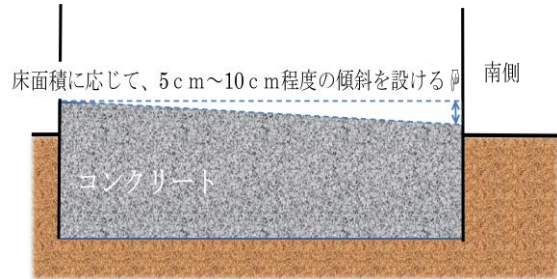
穴の大きさは、外部からの動物の侵入を避けるために5cm以下が好ましいでしょう。さらに、この穴からの蛇やネズミ、小鳥の侵入を防ぐために金網を張って下さい。

コンクリートの立ち上がり部分に排水口を設置した場合、飼育舎の周囲が不衛生になるので、一番良いのは右図のように排水管を設置して、側溝や浄化槽に汚れた水が流れるように排水路を設けることです。

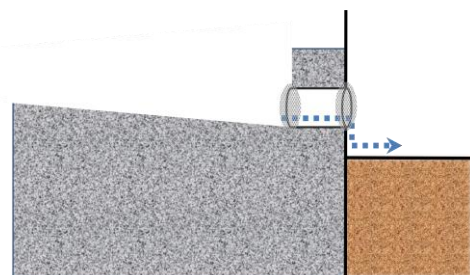
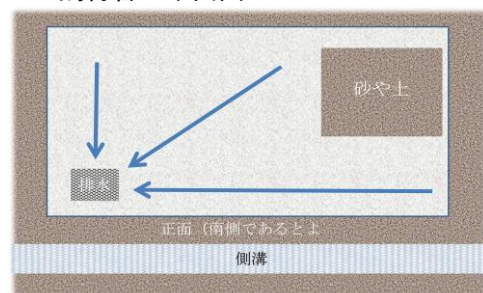
この場合、片流れの床よりも一か所に水が集まるように床を傾斜させた方がよいでしょう。

排水路は、飼育舎内の糞や藁（わら）、

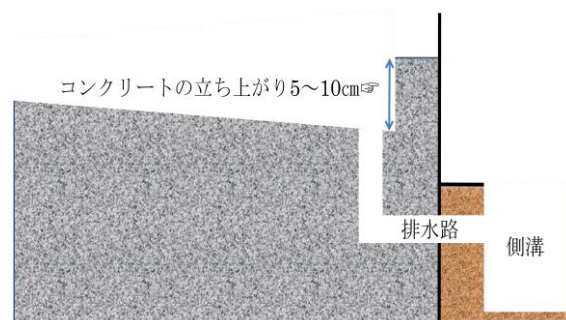
飼育舎の床の断面図



飼育舎の平面図



※排水口の大きさや金網設置がポイント



※排水路は詰まることを前提にして設置



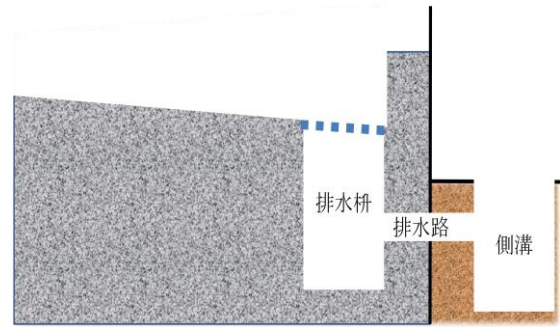




砂、土などで詰まりやすいです。飼育舎内に排水枡（はいすいます）を設置すると詰まりを防ぐことができます。右上図のように排水枡を設置すると良いでしょう。

排水枡は右下図のように色々な種類があります。ホームセンターなどで塩ビ製は2,000円位（アマゾン調べ）、コンクリート製は5,000円位（アマゾン調べ）で購入可能です。

床構造は、土間床からコンクリート床に改修することもできます。飼育舎の新築だけでなく、改修でも参考にさせていただくと幸いです。



## 私論抗論

### 「いわゆる“アクティブラーニング”」と飼育舎

門外漢である私が「アクティブラーニング」を知りたくて、以前より懇意にさせていただいている教育関係の方にお伺いしたところ、大学教育で提唱されていた「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修」を小・中学校に当てはめようとした言葉で、そっくりそのままを小・中学校教育には当てはめにくいことから「いわゆる“アクティブラーニング”」と表現したものだと教えていただきました。

最近では、「アクティブラーニング」が独り歩きしていることから、その表現を避けて「主体的・対話的で深い学び」と表現するようになってきているとも教えていただきました。

学校での動物飼育では、舞台は飼育舎です。小学校を訪問させていただくと、この舞台（飼育舎）は、多くの場合において老朽化していることがほとんどです。そして、多くの舞台（飼育舎）が、十数年前に卒業生が寄贈した舞台です。この舞台で、動物飼育に不慣れな教員と動物が好きな子供、動物は怖いけど興味がある子供たちで、毎日、四苦八苦しながらの動物を取り巻くドラマチックな出来事が繰り広げられているかと思うと、何かお手伝いをしたくなって仕方がありません。

卒業生たちとその保護者は、ボロボロになった飼育舎に居る動物のことを思い、また、その舞台に立つだろう後輩たちに、素晴らしいドラマチックな出来事が生まれることを願って飼育舎を寄贈したことでしょう。

学校動物飼育は、まさに「主体的・対話的で深い学び」に満ちたドキュメンタリーです。多くの思いのこもった飼育舎を大切にされますように、また、使われないうちになっていく飼育舎は、是非とも復活されますように、お手伝いできればと思っております。

